



# 地震学を社会に伝える連絡会議

Committee for Seismology Outreach

## 連絡会議の設立経緯と主な活動

2011年東日本大震災を契機として、日本地震学会は「行動計画2012」を立案し、その中で「社会に対して、“等身大”の地震学の現状を伝えていくべき」等を提言しました。その実現を目的として、2013年度に関連する委員会の連絡委員及びホームページと地震予測・予知担当委員等から構成される「地震学を社会に伝えるワーキンググループ」を設立し、2014年度からは「地震学を社会に伝える連絡会議」として活動を行っています。

昨年度の主な活動として、特別シンポジウムとオンライン談話会を主催・企画し、日本地震学会モノグラフを発行しました。今年度は、特別シンポジウム等の開催を予定しています。

## 特別シンポジウム・研究集会等の企画・主催・共催など

### ○昨年度の主な活動(特別シンポジウム、第16回日本地震工学シンポジウムのOS主催など)

- ・第3回特別シンポジウム「地震学」は自治体や消防の現場にどう使えるかー南海トラフや首都直下の対策現場から問う研究最前線ー

(2023年6月16日(金) 10:00 - 12:00、会場:東京ビックサイト+オンライン配信)

講師:平田直(東大名誉教授)、小平秀一(JAMSTEC海域地震火山部門長)、

木全誠一(名大、元名古屋市消防局消防長)、坂東淳(徳島県南部総合県民局長)

議論:講師+山岡耕春(名古屋大学)・中川和之(時事通信)

- ・第16回日本地震工学シンポジウム「オーガナイズドセッション:海溝型巨大地震の予測情報をめぐる防災対策とリスクコミュニケーションー「わかりにくさ」に向き合うー」

(2023年11月25日(土) 9:15 - 12:25、会場:パシフィコ横浜ノース)

オーガナイザー:山岡耕春(名古屋大学)、入江さやか(松本大学)

学術講演(口頭発表):計13名の発表(うち、3名は招待講演)

- ・オンライン談話会「2024年能登半島地震」(2/2~2/28の計4回開催)

講師:平松良浩(金沢大学)、西村卓也(京都大学)、石山達也(東京大学)、宍倉正展(産総研)、岡村行信(産総研)、川瀬博(京都大学)、青井真(防災科研)、今村文彦(東北大学)

### ○今年度の主な活動(特別シンポジウムなど)

- ・第4回特別シンポジウム「最新地震科学で備える南海トラフ地震」

(2025年2月22日(土) 13:30 - 16:00、会場:徳島大学 & Zoomによる配信を予定)

講師:平松良浩(金沢大学)、久田嘉章(工学院大学)、馬場俊孝(徳島大学)

パネルディスカッション:「どうだった, どうする南海トラフ地震臨時情報」

司会:入江さやか(松本大学)

## 日本地震学会モノグラフの発行

### 第5号 地震発生予測と大震法および地震防災研究(2017年12月)

「地震発生予測と大震法および地震防災研究」編集委員会

### 第6号 南海トラフ地震臨時情報:科学的データや知見の活用(2020年3月)

「南海トラフ地震臨時情報:科学的データや知見の活用」編集委員会

### 第7号 『等身大の地震学』をどう防災に役立てるのか(2024年4月)

「等身大の地震学をどう社会に役立てるか」編集委員会

詳細:[https://www.zisin.jp/publications/monograph07\\_01.html](https://www.zisin.jp/publications/monograph07_01.html)



公益社団法人

日本地震学会

The Seismological Society of Japan (SSJ)